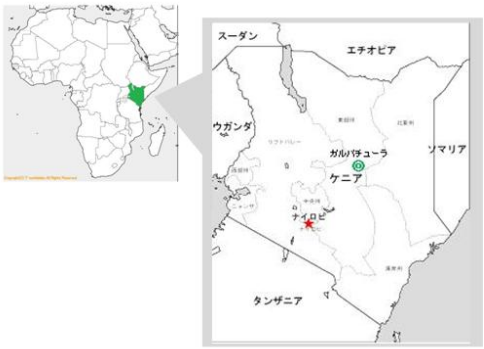
ケニア地域保健強化事業
2013 年年次報告書



【事業名】ケニア地域保健強化事業
（愛ホップ／IHOP）フェーズⅡ
【事業地】ケニア共和国ガルバチューラ県
（ガルバチューラ地区及びセリチョー地区）
【事業期間】
2013 年 1 月 1 日～2017 年 12 月 31 日（5 年間）
【上位目標】
ケニア国家保健戦略投資計画及び地域保健戦略を通じて、ガルバチューラ県の母子の健康状況が改善される
【事業目標】
ガルバチューラ県における地域住民の保健医療施設と地域保健サービスへのアクセスと利用が高まる

【活動内容】

１．対象地域住民の健康促進にかかる行動変容を図る

事業地のガルバチューラ県では、健康に対する正しい知識の欠如や多くの迷信・誤解が住民の健康促進にかかる行動変容への障害[1]となっている。そのため、事業では健康の促進と病気の予防を目的に健康教育を実施し、保健衛生にかかる正しい知識を伝えている。いくつかの保健キャンペーンも支援しており、母子保健キャンペーンでは、コミュニティヘルスボランティア（CHV）が家庭訪問による啓発活動を行った。また、保健に関する活動の進捗や課題・情報の共有を行い、対策について検討する地域住民対話集会を開催した。

活動１：地域住民保健対話集会の実施

コミュニティユニット（CU）の活動の進捗状況・課題の共有を目的に、村長、保健省コミュニティヘルス普及指導員(CHEW)、コミュニティヘルス委員会(CHC)メンバー、コミュニティヘルスボランティア(CHV)、伝統的産婆、ローカルリーダー、教師、宗教指導者、若者の代表など地域の主要メンバーを招へいし、地域住民保健対話集会を実施した。

地域住民対話集会に参加する住民

対話集会は第 2 四半期から第 4 四半期にかけて、四

[1]「夜間のトイレには悪霊がいる」という迷信のため、トイレを建設しても屋外で用を足す、「出産予定日を人に知られると難産になる」といった言い伝えから産前健診を受診しない、といった例が見られる。

半期毎にガファルサ、セリチョー、モドガシェにて開催され、計 454 人（男性 224 人、女性 230 人）が参加した。

この集会は、事業担当者と CHEW を中心に進められ、以下の進捗や課題が報告された。

- 健康促進にかかる住民の行動変容が見られ、医療施設での出産、産前健診の受診、予防注射の接種等、保健サービスの利用は増加している。
- 多くの医療施設における看護師の不足は、保健サービスの提供を進める中で最も大きな弊害となっている。各医療施設には 2 人の看護師が配置されているが、交互に勤務しているため、実際に医療施設で患者に対応できるのは 1 人のみとなっている。
- これまで女性の伝統的産婆のもとで出産を行ってきた妊婦は、医療施設で出産する際、男性看護師が付き添うことに抵抗感を持っている。
- 医療施設での出産率は現在も低いままであるが、伝統的産婆が地域住民対話集会で医療施設での出産の重要性について学び、彼女たちの協力を得ることにより、医療施設での出産率が改善されることが期待される。伝統的産婆には村における妊婦の出産前の管理を任せることとし、出産は必ず最寄りの医療施設で行うように指導している。医療施設での出産は無料であるため、家族は伝統的産婆にこれまでの慣習通り謝礼金を渡すことができる。
- 多くの女性が子どもへの予防接種の必要性を理解している。予防接種率は事業開始当初より向上し、ガルバチューラ県では 72%（2013 年）である。前年度の 82%から接種率が下がっているのは、医療従事者のストライキが行われたためである。
- モドガシェでのポリオワクチン接種の際、「下痢になる」という迷信や、既に多くの予防接種を受けたという理由から、数名が子どもへの接種を拒否した。CHC や地元のリーダーからもこの件について報告されている。
- 事業対象地では下痢症の件数が減ったと報告される一方、モドガシェでの下痢症の発生率は高く、水不足が状況を悪化させている。モドガシェでは、通常 2 シリング（約 2 円）で売られている 20 リットルの水が乾季には 20 ケニアシリング（約 20 円）に跳ね上がり、他地域よりも高価である。11 月には 65 件の下痢症と 1 件の赤痢の症例が報告された。
- CHV は病気療養者への服薬指導を行っているが、3 つの全ての CU から服薬中断のケースが報告された。今後、患者の病気が再発しないよう、CHV の活動を強化する。
- ガファルサでは薬物乱用者が増加しており、村長をリーダーとしたメンバーが地域での啓発を行っていく。
- 事業対象地全域で妊婦の産前健診受診者が増加した。しかし、医療施設での出産率については、未だ低いままである。
- 保健サービスの強化において、受診料がかかることが最も大きな障害となっている。

活動２：啓発教材の作成と配布

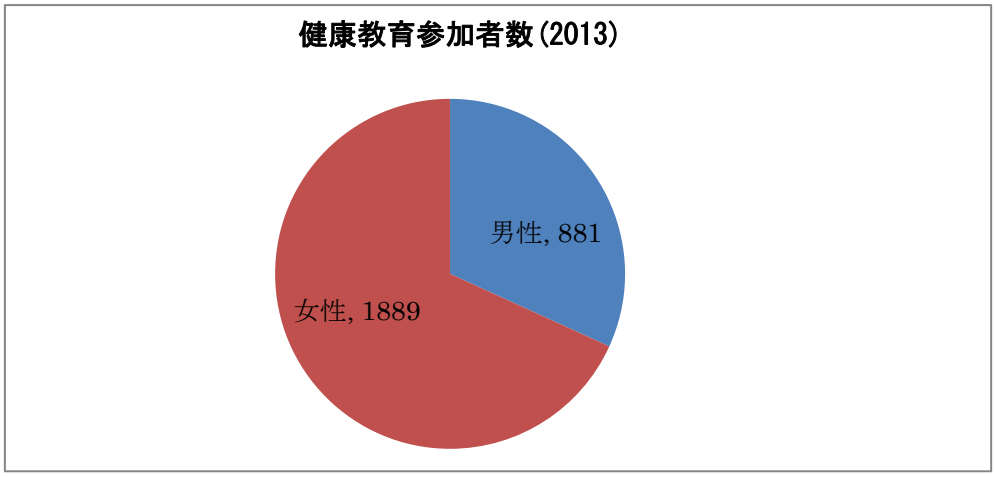
住友商事株式会社からの寄付により、計 435 の T シャツと帽子を作成し、CHV、スタッフ、主要なパートナーへ配布した。

啓発教材として作成した帽子

活動３：住民に対する健康教育の実施

地域住民の健康の促進と病気の予防を目的に、健康教育の講習会が 13 村（ガファルサ、ベルゲシュ、ムチュロ、コンボラ、イレサボル、バダナ、ビリキ、セリチョー、モドガシェ、ガルバチューラ、タナ、エスコット、マルカダカ）で計 91 回実施され、計 2770 人（男性 881 人、女性 1889 人）が参加した。

講座のテーマは、「子どもへの予防接種」、「母乳育児（特に出生後 6 ヶ月間）」など多岐に渡る。「公衆衛生」の講座では、日常的な衛生管理が健康改善に関わる大きな要因であることが強調された。また、「医療施設での出産」のテーマでは、医療従事者の付き添いがない出産は緊急事態に対処できず、死亡リスクも上がることが周知された。



活動４：関係者会議の実施

プロジェクト担当者が以下の会議に参加した。

- 「ポリオキャンペーン」準備会議　3 回　（その他の参加者）保健省職員と他の関係者
- 「母子保健キャンペーン」準備会議　2 回
- 県平和委員会　3 回　（その他の参加者）ローカルパートナー
- 県地域諮問委員会　3 回
- 県開発フォーラム　2 回

県知事が議長を務める２つの県開発フォーラムへ主要省庁、NGO らと共に出席し、ケニ

ア赤十字社はガルバチューラの同フォーラムの県開発事務局のメンバーとして任命された。前県運営グループが新たに「県開発フォーラム」となり、以前と比べ地域メンバーを含む幅広いメンバーが参加している。事務局は、新しいカウンティーシステムの中で、開発イニシアティブを実施する全てのケニア政府省庁や NGO、その他の機関への支援を行う。

活動５：保健キャンペーンへの支援

2013 年 6 月 16 日に「アフリカンチャイルドデー」が開催され、約 2000 人の子ども、1000 人以上の大人が参加した。他の地区から招待された学生たちは、小児保健の促進、虐待から守られる権利、教育と社会福祉を受ける権利など、子どもに関わる様々な保健、社会的課題について、詩や歌、演劇を通してメッセージを伝えた。イベントには県知事や子ども議会の議長も出席した。本事業ではバナー作成費と軽食費の支援を行った。

アフリカンチャイルドデー

2013 年 5 月 8 日には「世界赤十字デー」がイシオロで開催され、700 人以上ものユース、大人が参加した。祝典において事業チームはブースを出し、本事業の紹介を行った。

非識字のために起こる健康への影響を軽減するため、9 月 8 日に開催された「国際識字デー」の中で、本事業は参加者やゲストへの軽食費を支援した。祝典では教育省より成人学習者に対し卒業証書が授与された。県知事は基調講演で、年齢や性別に関わらずガルバチューラ県の全ての人にとって教育が重要であることを強調した。

2013 年 12 月 1 日に開催された「世界エイズデー」において、パートナー支援の一環として、軽食費、テント・椅子のレンタル料、ボランティアの日当を支援し、プロジェクト車両を貸し出した。

活動６：Malezi Bora(母子保健キャンペーン) [2]の実施

5 月 8 日から 10 日、11 月 4 日から 15 日に開催された「母子保健キャンペーン」において、本事業は保健省と共同でボランティアの日当を支援し、プロジェクト車両を貸し出した。ボランティアは家庭訪問を行い、住民への虫下しやビタミンＡ配付、予防接種のフォローアップ、医療施設での出産を促進する啓発活動を行った。

[2] Malezi Bora(母子保健キャンペーン）：保健省は、母子保健の健康改善、また、医療施設での出産の促進を目的に、年に 2 回（5 月、11 月）母子保健週間を設け、各地でキャンペーンを実施している。

２．保健医療サービスにかかるシステム強化の支援

ケニア保健省は、保健医療サービスへのアクセス向上により、国民の健康状態を改善することを目標とし、「地域保健戦略」を推進している。ケニア国内で提供される保健サービスは６段階（レベル 1 はコミュニティ、2 は簡易診療所、3 は診療所、4 は県立病院、5 は州立病院、6 は国立病院）に分けられており、各レベルで提供するサービスは異なる。

同戦略ではレベル１に重点を置いており、基礎的な保健サービスを提供するコミュニティの能力強化によって、住民が健康について課題意識を持ち、健康状態の改善、疾病の予防に向けて行動することを目指している。

地域保健戦略では、住民 5,000 人につき 1 つの コミュニティユニット （CU）を形成し、このユニットの中心的な役割を担うコミュニティヘルボランティア（CHV）とそれを指導する保健省コミュニティヘルス普及員指導員（CHEW）といった人材を育成することで、レベル 1 の保健サービスが強化されることとしている。

活動１：コミュニティユニット（CU）の形成

保健省とプロジェクトの支援により、ガルバチューラ地区の３つの村（マルカダカ、ガルバチューラ、ボジ）で新たに CU が形成された。住民主体で運営されるよう、メンバーの選出には村長や年長者も参加した。新たに選出された 60 人の CHV と 3 人の CHEW、39 人のコミュニティヘルス委員会（CHC）[3]のメンバーが地域保健戦略の研修を受講した。育成されたボランティアは今後、地域住民へ保健知識の普及、保健情報収集などを担い、医療へのアクセス、保健システム強化に寄与する。

活動２：コミュニティヘルスボランティア（CHV）への地域保健戦略に関する研修の実施

地域保健戦略に基づき、60 人の CHV が 10 日間の研修をガルバチューラで受講した。コミュニティで活動するための知識･技術を習得する基礎課程（6 単位）として、リーダーシップスキル、コミュニケーション＆カウンセリングスキル、基本的な健康増進の実施と救命技術などの内容を含んでいる。

コミュニティヘルスボランティアの研修風景

活動３：コミュニティヘルス委員会（CHC）への研修

３つの CU において、計 39 人の CHC メンバーが選出され、5 日間の能力強化研修が行われた。事業では、CHC が地域での保健サービスを主体的に管理する能力が持てるよう取り組んでおり、村長たちも研修の参加者に含めている。

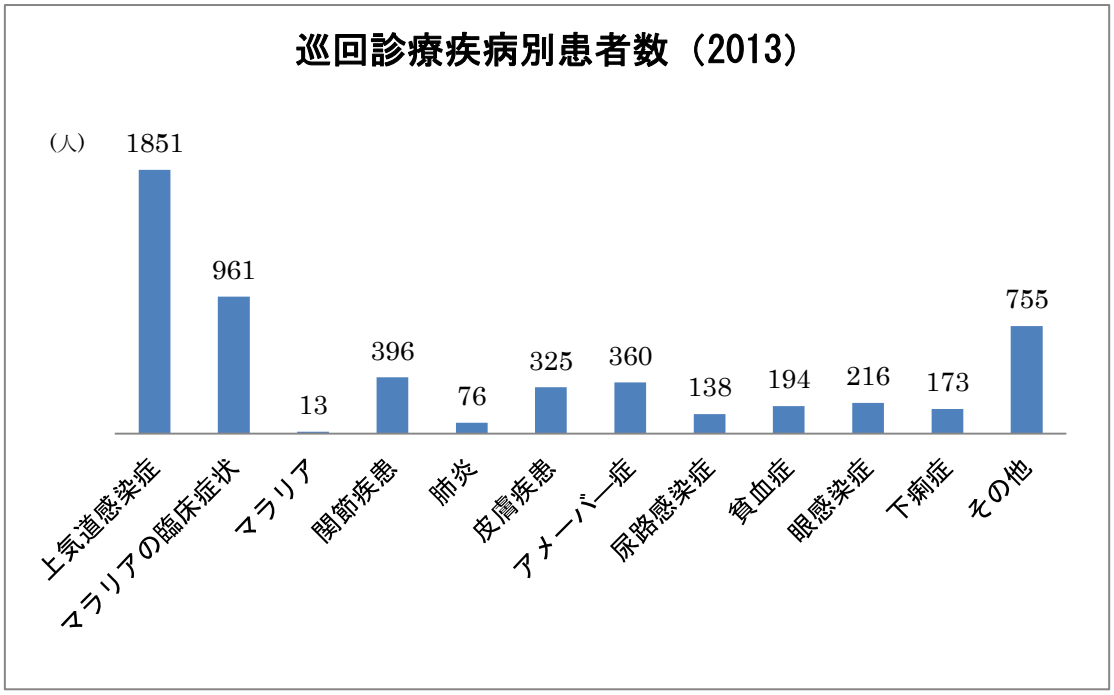
[3] コミュニティヘルス委員会：コミュニティユニットの運営管理、スーパーバイズを行う組織

活動４：巡回診療の実施

医療施設のない 7 つの村を対象に、各村 10 回の巡回診療が実施され、4,324 人に診療を行い、3,774 人に公衆衛生に関する指導を行った（計 8,098 人）。巡回診療では、予防接種や産前ケア、外来診療、臨床検査、公衆衛生（健康教育、浄水タブレットの配布、衛生の推進）、栄養の調査と補給等が実施された。一般的に多い疾病は、上気道感染症、マラリア、関節の病気、女性の貧血である。

巡回診療で医薬品を処方するスタッフ

2013 年の巡回診療の医薬品代は、住友商事株式会社からの寄付金より支出した。



【補足】マラリアの臨床症状：発熱、頭痛、嘔吐等の症状のみでマラリアと診断された件数。血液検査は受けていないケース。

活動５：ガルバチューラ県立病院手術棟建設／医療資機材への支援

ケニア政府の選挙区開発基金（CDF: Constituency Development Fund）との共同出資で、2011 年にガルバチューラ県立病院の手術棟建設を支援し、既に先方へハンドオーバーしたが、建設業者による施工ミスや保健省による医療機材整備の遅れのため、未稼働の状態が続いている。修復作業は２月に完了する予定であり、機材についても保健省と協議し、

調達が開始された。全ての医療資機材は手術室の修理完了を待ち搬送される予定である。また、本事業を現場レベルで管理する、ケニア赤十字社アッパーイースト地域事務所の倉庫を昨年から整備しており、床板を張る作業を進めている。

活動６：県保健運営チーム（Sub County Health Management Team）月例会議

県保健運営チーム会議が 1 回開催され、ガルバチューラ県立病院の手術棟の修理について協議した。建設省とケニア赤十字社が選定したコンサルタントにより実施された 2 度の評価を参考に、建築技師や、積算士、アッパーイースト地域事務所副事務総長が手術棟を視察、今後の予定について検討した。会議へは、県知事、選挙区開発基金代表者、病院の経営陣、病院の評議委員会、コミュニティ代表者、IHOP 事業担当者も参加し、手術棟の建設を専門とする新たな建設業者に修理を依頼することが合意された。

３．ケニア赤十字社の事業実施能力を強化する

活動１：事業モニタリングと評価の実施

事業モニタリングと評価は、事業担当者、事業アシスタント、地域統括支部保健担当者、本社事業担当者、日赤要員によって実施された。ボランティア調整会議、地域住民対話集会、巡回診療を視察し、評価を行った。

ガルバチューラ県立病院の評価は、第 4 四半期に実施され、手術室として機能するために必要な修理について決定された。

12 月のモニタリング評価の際、日本赤十字社の五十嵐要員と新要員である佐野要員にケニア赤十字社本社事業担当者が同行し、事業地や担当スタッフの紹介を行った。
日赤、地域統括支部保健担当者、本社事業担当者からのフィードバック内容は以下の通り。

・HF/VHF 無線の管理・修理を頻繁に行うこと。
・ボランティア向けの無線機修理講習を実施すること。
・月報のフォーマットを作成すること。
・2014 年 2 月に日本赤十字社本社より担当者が事業地を視察することを周知。
・フィールドでの出来事を報告書へ記載し、チームで共有すること。

活動２：IHOP 広報活動（記事や映像資料の作成）

住友商事株式会社より、巡回診療で使用する医薬品購入のための寄付をいただいた。事業地での贈呈式には住友商事ナイロビ事務所長が参加し、ボランティアとパートナーのモチベーション向上のために作成したＴシャツと帽子も配布された。当日の様子は広報部門によって DVD が作成された。

活動３：ケニア赤十字社の職員の研修
事業担当アシスタントがアガカーン財団の支援によって開催された「地域保健と開発に関する研修」に参加した。

活動４：事業用車両及びバイクの購入
事業用車両（トヨタランドクルーザー）とバイク（ヤマハ DT125cc）を購入した。

活動５：事業関係者の人件費
保健部長、本社事業担当者、本社会計担当者、地域統括支部保健担当者、事業担当者、事業担当アシスタント、会計担当者、事業ドライバー、計８人の人件費の支援を行った。

活動６：ガルバチューラ事務所とイシオロ県支部の事務所経費
ガルバチューラ事務所とイシオロ県支部において、通信費、光熱費、賃貸費、消耗品費、メンテナンス費、光熱費、警備員費用を支援した。

活動７：ケニア赤十字社調整会議（本社、地域統括事務所）
調整会議として、月毎の支部スタッフ会議、四半期毎のアッパーイースト地域事務所会議、半年毎の本社での検討会議が開催された。フィールドにおいては、モドガシェ、セリチョー、ガファルサ、ガルバチューラにおいて、ボランティアと 2 度の調整会議が開催され、ボランティアリーダー会議がガルバチューラで 1 度開催された。重要な検討事項として、事業活動、IHOPⅡにおけるボランティアの役割、報告プロセス、そして、弱点、課題、今後の対応について話し合われた。ボランティア調整会議で上がった問題は以下の通り。
・ケニア赤十字社ボランティア／CHV への報酬アップの要請
・ケニア赤十字社ボランティア／CHV への再研修の開催
・ 新しく形成した 3 つの CU のケニア赤十字社ボランティア／CHV へのファーストエイド研修の開催
・CHV 用メディカルキット（保健省）の配布
・ 類似プロジェクトや活動を行っている地域へのケニア赤十字社ボランティア／CHV の相互訪問の実施

活動８：緊急保健医療対応
プロジェクト活動を実施している期間中、ガリッサカウンティーにあるダダブ難民キャンプ内で、野生型ポリオウィルスのアウトブレイクが発生し、ガルバチューラ県境で 5 歳未満の全ての子どもを対象にした、ポリオ予防接種キャンペーンを実施。政府がケニア赤十字社を含むパートナーからの支援を求め、9 月から 11 月にわたり、3 回接種を実施した。

IHOP は、ロジスティック、日当の支援を行った。

【モニタリングと評価】
本社での定例検討会議で計画と予算の見直しを行った際に、年次計画、予算策定時に計画していなかったいくつかの調整会議について、プロジェクトを円滑に進めるために追加することを決定した。追加した会議は以下の通り。
・県保健運営チーム（Sub County Health Management Team）月例会議
・支部月例会議
・ボランティア／チームリーダー四半期調整会議

手順を標準化するための新たなモニタリング／評価ツールを導入すること、また、情報通信技術や、モバイルテクノロジーの導入はデータ管理（情報の収集、保管、分析）向上のため重要であり、将来は入力したデータをリアルタイムで反映させ、管理できるようにすべきである。
プロジェクトレベルでは、いくつかのモニタリング／評価ツールを導入し、チームリーダーやボランティア／コミュニティヘルスボランティアへの指導、支援体制を整備した。

【調整とネットワーキング】
保健セクターはフィールドレベルにおける連携システムが構築されていないため、調整、ネットワーキング、連携、パートナーシップを強化する必要がある。そして、連携システムが構築され、県保健運営チーム及び地域リーダーたちのリーダーシップが必要である。IHOP は引き続き、パートナーや省庁、カウンティー機関の連携を確保するために重要な、アドボカシーの役割を担っていく。
他の組織とのネットワーキングは非常に重要であり、連携をしている団体の１つである Action Against Hunger(ACF)により巡回診療の中で栄養補給支援が行われた。ACF チームはケニア赤と保健省の巡回診療に参加、患者の栄養状態をモニタリングし、必要に応じて栄養剤の提供や病院への紹介を行った。
また、保健省（人員、薬剤）とケニア赤（管理監督、ロジスティックス）が連携し、7 つの村で巡回診療を実施した。

早期の出口戦略の一部として、IHOP はコミュニティ主体の活動を確保するため、すべての過程に地域住民を巻き込むことの重要性を強調してきた。その結果、CHC メンバーや CHEW が活動計画を策定、実施し、彼らの本事業への取り組みが強化された。
今後、CHC は CHV や CHEW を含む CU を主導する役割を果たし、調整し、管理していく必要がある。

2014 年には、事業終了後の自立発展性を担保するために重要な役割を担うであろう、生計支援の活動を開始する予定である。

【課題】

１．長年培われてきた文化と伝統的な信仰が、保健サービスにかかる行動変容、病院での出産、完全母乳育児、栄養摂取の妨げとなっている。

２．医療施設の無線設備と太陽パネルの故障。

３．保健省の救急車の故障により、緊急搬送が必要場合は事業車両が患者を搬送しており、緊急搬送によって事業用車両が駆り出されるため事業に支障が出ている。

４．ガルバチューラ県立病院に血液保存用冷蔵庫が無いために、妊婦が貧血で死亡している。そして、血液保存用冷蔵庫と救急車の不在により、マウアやイシオロへの患者搬送の数が増えている。

【提案】

１．あらゆる人を対象に地域に受け入れられやすいキャンペーンや啓発活動を増やす。

２．故障している無線設備と太陽パネルの修理のために、予算の再配分を行う。

３．保健省へ救急車を含む保健省の車両の修理を行うよう要請する。

４．ガルバチューラ県立病院に血液保存用冷蔵庫の設置を行う。